

2017年5月21日

福音書からのメッセージ

わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。

(ヨハネによる福音書 15章3節)

桃山基督教会には、葡萄の樹という名前の教会報があります。その創刊号は 1940年9月15日に発行されました。そこにはこのような言葉が書かれていました。

「この(葡萄の樹という)名前は、教会がキリストという一本の葡萄の樹に連なる枝であるというイエス様の御譬えからとりました。その故に、我々は同じ枝に連なる兄弟姉妹として、互いの苦楽を共に致したいと存じます」。

つまりわたしたちの教会は、自分たちが葡萄の樹の枝であることと同時に、隣にいる人も同じようにイエス様に連なっているのだということを、ずっと大切にしてきたということです。ではぶどうの木とは、どのようなものでしょうか。

ぶどうの木はツル性落葉木です。園庭にある藤の花と同じ種類です。前に植木屋さんと、藤棚の剪定について話したことがあります。植木屋さんは言われました。大切なことは、一本一本の枝を大切に扱うということだそうです。たとえば不要な枝かどうかを判断するときには、端っこのところと根っこの部分とを二人がかりで引っ張ります。そしてちゃんとつながっている枝かどうかを判断して、いらない枝だったら切除します。要はその枝一本一本をきちんと把握して、本当に必要なものかどうかを確かめる。その根気のいる作業が必要なのです。

想像してみてください。わたしたちは一本一本の枝です。どうにかこうにか、イエス様という幹に連なっている、そんな枝です。そこへ神さまがやってきて、本当に栄養はいつているか、ちゃんと実を結ぶよう



に育っているか、丁寧に点検するのです。

こう言うと、わたしたちは少し不安をおぼえる

かもしれません。本当に自分はイエス様につながっているのだろうか。その時には、イエス様のこの言葉を思い出してください。「わたしもあなたがたにつながっている」。イエス様は決してわたしたちから手を離さない。大丈夫だよ。そう約束してくださいなのです。

ぶどうの枝は、まっすぐ育ちません。楠のように、まっすぐと自分の力で伸びていく、そんな枝ではありません。向こうに伸びたと思ったら、いつの間にかこっちに戻ってきて、伸びないのかなあと思っていたら、急にまた伸び出して。まるでわたしたちです。そして周りを見ると、同じような枝だらけです。みんな思い思いのところに伸びるから、ある枝は他の枝の邪魔をしまったり、またある枝はとなりの枝からみついて、どうしようもないことになってしまったり。でもお互いがお互いを支え合いながら、共に成長していくのがぶどうの木です。

わたしたちは一人として、同じ人はいません。そして一人として、自分一人だけで豊かな実を結ぶ人などいないのです。しかしイエス様に連なり、共に支えあうことで、わたしたちは助け合いながら素晴らしい実をつけていくのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>